

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2011年5月1日

92号



## パラグアイ川の水位が上昇し、レダ開拓地洪水の危険性（4月）

パンタナールは世界最大の湿地帯（日本の本州と同じ大きさ）で、パラグアイ川上流に位置するブラジル、ボリビアにて雨量が多くなると川下にあるパラグアイの湿地帯はパラグアイ川の岸を超えて平地に溢れ、洪水に見舞われます。

湿地帯は高低差が少ないため、洪水と言つても徐々に水が増え、湿地帯の低い部分に水がたまります。レダ地域においても一〇年に一度、洪水に見舞われてきましたが私達が開拓を十一年前に初めてより、今まで洪水になったことはありませんでした。洪水対策のため、殆んど全ての建造物は高床式に建造しております。また、数年前にレダの基地周辺に土手も作りました。

三十年近く前の洪水はパラグアイ川の土手を超えて、パラグアイ川から七kmまで水が入りました。川近くは二mまで水没し、多くの被害がでました。今年は川の水が前年以上に増加し、洪水になる危険水域近くになっておりこれからも水かさが増えて来ますので予断を許さない状況です。

被害を少なくするため、牛、豚、ヒツジなどを奥地に移動し、機械類も水に浸ることがないよう場所を移動する準備をしております。洪水になれば、車が移動出来ず、飛行機も着陸できないため、移動は全て船に頼る以外に無くなります。また、高低差が少ないと、一度、洪水になることがあります。今日までこの地方に生活して来たインディヒナの人々は長い期間、自然と闘い、共生してきました。私達、南北米福地開発協会の指導員もこの度の経験を通して、多くのことを学び、自然を破壊することなく、人間と自然が共生できる道を探す素晴らしい体験に成ることと期待しています。

既に川の水かさの増加とともにレダ近くにカピバラの家族を見る機会も多くなっております。

写真撮影 飯野氏 (2011年3月末)





水が岸を超えてつたるパラグアイ川

報告（三月二十四日 飯野記）

飯野記

川の水位が急速に上がつて、今や土盛りした土手下に達しています。土盛りしていい所には、どんどん水が入つて来ています。後 $50\text{cm}$ 上昇すると危険水位になります。奥地に行く道路も途中水没する可能性が出て来ました。既に百haの開墾地には、水没して行く事ができません。第1号の4号の魚養殖の池も水が入つて来る危険性が出て来ています。

トラクターを使って基地内の草刈りがどんどん進んでいます。四十日の長雨の為、至る所がぬかつていて、草刈りが出来ず雑草雑木が延び放題となり、酷い所は私の腰まで来るほどの高さに延びていて、蚊の大群発生の原因を作っていました。

基地内の庭や道路、果樹園などが草刈りされ、スッキリして来ましたが、今や第一植樹園内の草刈りも始まりました。蚊の大群も何処かに消え去り、蚊の攻撃も昨日あたりからグッと穏やかになつて来ています。暑さも三十℃前後になり、少しずつあの蒸し暑さから解放されて来始め、良い季節がやつて来たという感じです。

卷之六 農業關係

第一旧館内で、農業関係や釣り関係の作業をすると、余りにも泥が持ち込まれ汚れすぎる為、宿舎と作業場を分けることが長らく検討されていました。農作業場の納屋を作ることも数年前からの懸案でしたが、予算もかかりことなので、当面建設中のビル一階と、工具管理倉庫を活用することになりました。その前に大倉庫の機材置き場を整理整頓していくことになり中田所長、大山組みで数日かけて片付け作業が始まりました。数年間放置したままだつたこともあって、毒蛇が積み上げられた材木などの下にいたり、熊蜂が出てきたり、作業の危険性は、日本などの通常の作業現場以上の出来事が常に起こります。汗を流して頑張っています。

④ 奥地レテロのところに、先週買って来た山羊二五匹の簡単な小屋を作る為、佐野さん達牧畜関係者は取り組んでいます。また、第四の橋の近くに実験的に牧草の種を蒔いて育てるための場所造りがフェリックス組みで行われました。ヤシの木を切り倒し、雑木、草を刈り、1 h ほどの空間が作られています。一二三日、種を蒔きました。

日本の大震災に対して、国を挙げて取り組んでいる様が感動的ですが、私達も負けずに頑張りたいと思います。以上レダ近況です。

## レダの最近の活動 第一植樹園草刈り

敷地建物の周りだけでなく、第一植樹園にもビクトリー

ノさんが運転するトラクター

が入り、蚊、蜂と戦う草刈りが始まりました。

第五植樹園は、長雨で土地がぬかつて、対応できなかつた間、蔓草が全てを制圧する勢いです。毒蛇と蚊と戦いながら、蔓草取りが展開されているニームの森。雑草も伸び放題です。

## 豚小屋整備

豚ランドの周囲の整備（雑木を切り、藪を取り払い、整地して水はけを良くし、ランド入口に新たなドアを付け）と豚小屋ドアの修理などが、中田所長陣頭指揮で大山組と共に一週間がかりで三月下旬迄行われました。

## 農作業場＆倉庫作り

以前から懸案の農業部門の作業場及び倉庫用に、納屋作りが願われていましたが、予算の関係で、当面、建設中のビルの一階事務所に予定している場所に、中田、大山組で、仮の農作業場及び管理倉庫が準備されました。合わせて大倉庫の軽油タンク下及びその周囲の大片付けが、行なわれました。現在青木通泰さんの代わりに、魚の餌やりを担当している農業担当の伊達さんも大喜びです。



## 水位急上昇

先週は $50\text{ cm}$ 前後水位が上がり、急激な上昇に、今年も洪水の懸念が高まつてきました。

今年の川の水位上昇は、一月五六 $\text{cm}$ 、二月一四〇 $\text{cm}$ 、三月は二五日現在一七〇 $\text{cm}$ 上昇となっています。後五〇～六〇 $\text{cm}$ 上昇すると、各所で道路水没や、水が敷地内に入り込んで来ます。通常七月頃まで上昇して行くので、三月下旬でここまで上がると今後を注目せざるをえません。

ブラジルのマットグロッソ州のパンタナールは、既に家が水に浸かつて洪水状態になつてているという情報もあり、長雨の影響も充分考

えられます。二〇〇七年も三月ぐらいまで急上昇し、緊張しましたが、それ以降横ばいで危機を回避できました。冷静にバイアネグラやブラジルの確かな情報を入手しながら対応を検討して行く必要があります。

ちなみに洪水の有つた時の水位は、最も緊張した二〇〇七年のピーク時より、一九八二年は二 $\text{m}$ を越え、最も大きな洪水でした。一九九七年でも、一 $\text{m}$ を越えて洪水となっています。



# 第11回国際協力青年奉仕隊募集



第11回国際青年奉仕隊募集要綱

●期 間：2011年8月25日(木)～9月10日(土)

8／24（水）：オリエンテーション・研修を行います。 8／25成田発  
後日、参加決定者にスケジュールの詳細を通達。

●活動場所：パンタナール地域：オリンポ市、レダ基地、エステ市近郊

活動場所：オリンポ市、ラウ基地、エステ市郊外  
活動内容：オリンポ市農園建設、オリンポ市インディヒナ村植樹と学校修復そしてエステ市近郊植樹  
生徒代表等と農場建設及び文化交流

土産販賣等と農場建設及び文化交流、レーダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、垂馬、釣り体験、世界遺産訪問

●参加資格：18歳以上25歳まで（健康に自信のある男女）

●参加条件 ①小論文(400字以内)提出

①小論文(400字以内) 提出  
テーマ: 「参加の動機及び将来の夢」 提出期限: 6月30日

提出先：南北半球地圖展協会（E-mail：[map@jst.go.jp](mailto:map@jst.go.jp)も可）

②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること（希望者は裏

● 合格発表：6月25日 直接該当者に連絡致します

● 参加料金：3万円～5万円 直接該当者に連絡下さい。  
● 募集人数：8～10名 ● 参加費用：20万円（ボランティア現地の支

成田ーアムンション往復航空チケット代 海外保険代金

成田～ハリケンタレ往復航空チケット代、海外保険代金、滞在費等、は  
(小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担)

●車い込み及び開問い合わせ甘先：南北米福地開発協会事務局 担当：柴沼

南北米福地開発協会事務局  
〒二二一三一〇〇一  
神奈川県川崎市高津区溝口三一十一一十五  
電話 ○四四一八二九一一一八二二一九一二一八二二〇  
F a x 会費納入 郵便口座  
一〇一八 ○一七七六八〇四七一  
代表 柴沼邦彦  
E-MAIL office@asd-nsa.jp  
ホームページ

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会費は月五〇〇円、毎月、パンタナル通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

地球家族として  
自然を守りましょう